

子どもの安全を守るために

京(みやこ)あんしんこども館

子どもの特性のひとつに視野がせまいことがあげられます。

「子どもはなぜ、車が来ているのにボールを追いかけて道に飛び出してしまうのか？」

子どもの安全を守るためには、この「なぜ子どもは？」の疑問、つまり子どもの特性を理解しておく必要があります。その特性のひとつが視野の狭さです。大人が左右150°、上下120°見ることができるのに比べて、5～6歳の子どもは左右90°、上下70°と約半分の視野しかありません。幼い子どもではさらに狭い視野といわれています。子どもの歩行中、自転車乗車中の巻きぞえ事故が多いのは、大人には当然見えるだろうと思っていたことが、子どもの視野では狭くて見えないことも一因です。

子どもの視野を実際に体験してみると、子どもにはどんなふうに社会がみえるか、どのように危険を知らせたらよいかがよくわかります。

子どもには「危ない」とか「気をつけなさい」という抽象的な言葉ではなく、具体的な方法で教えましょう。

作ってみましょう

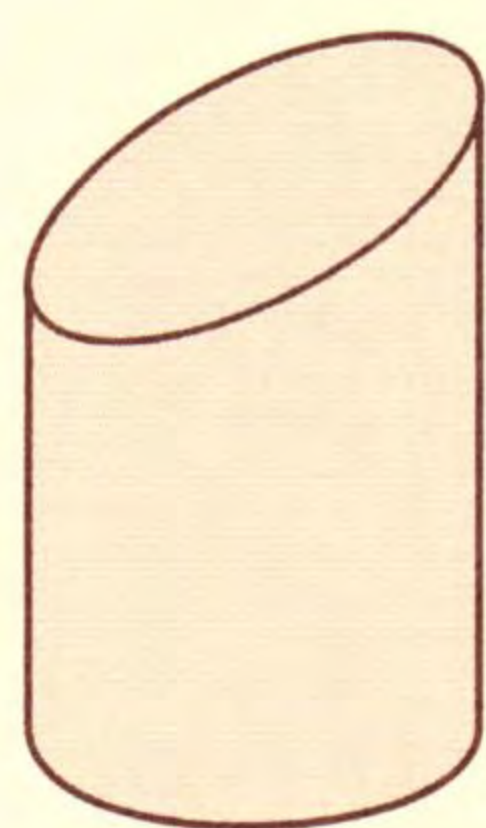
◆幼児視野体験めがね〈右図次ページ〉

右図の「幼児視野体験メガネ」を組み立て、ひざを折り曲げて幼児の目の高さになり、視野のせまい幼児の世界を体験してみましょう。

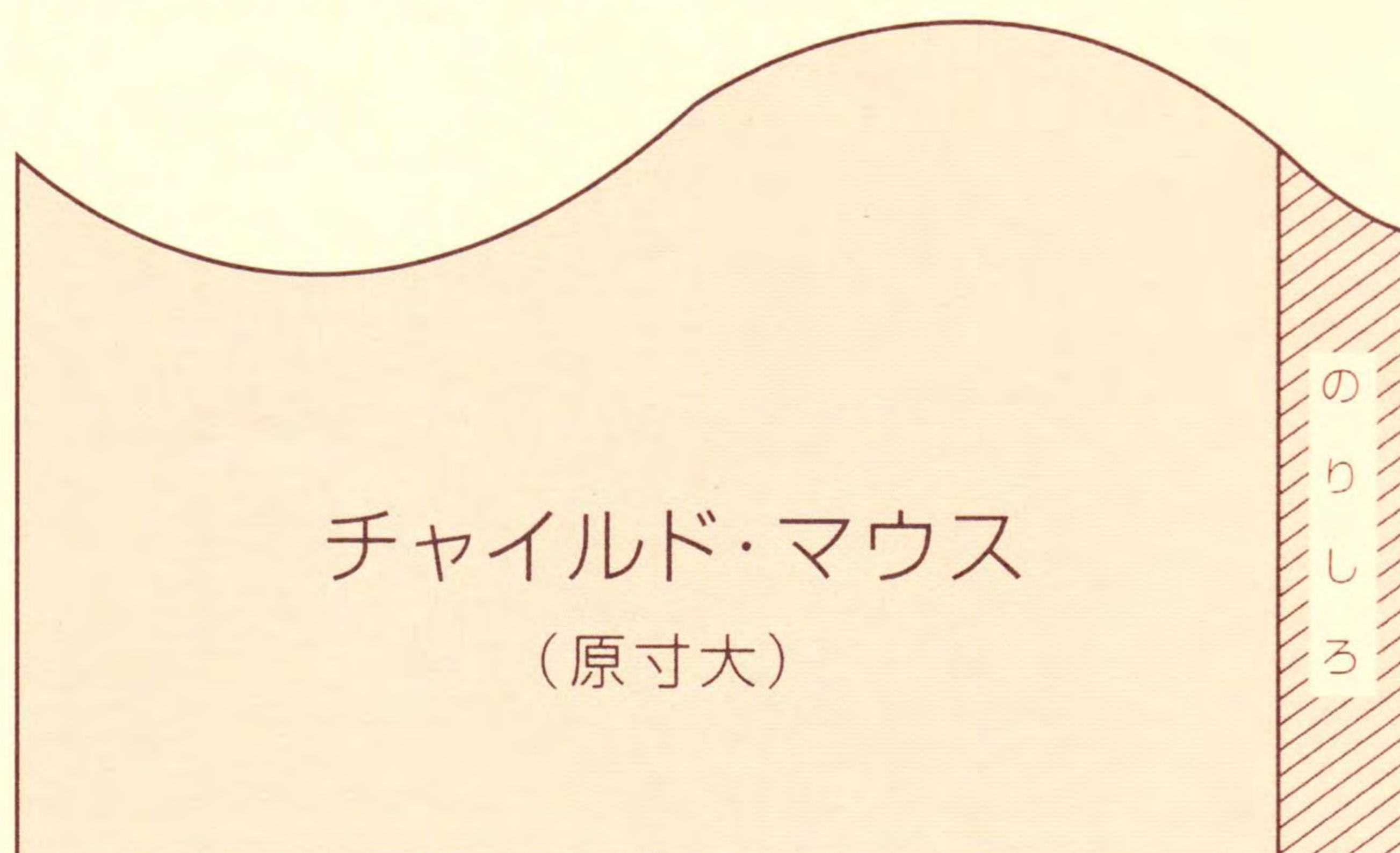
◆チャイルドマウス(子どものくち)〈下図〉

この直径32mmは1～2歳の子どもの口の大きさといわれています。これを通る大きさのものは誤飲のおそれがあります。

この「チャイルドマウス」に身の回りのものを入れてみましょう。ミニカーも縦にすれば以外に大きなものでも子どもの口に入ってしまうことが分かります。

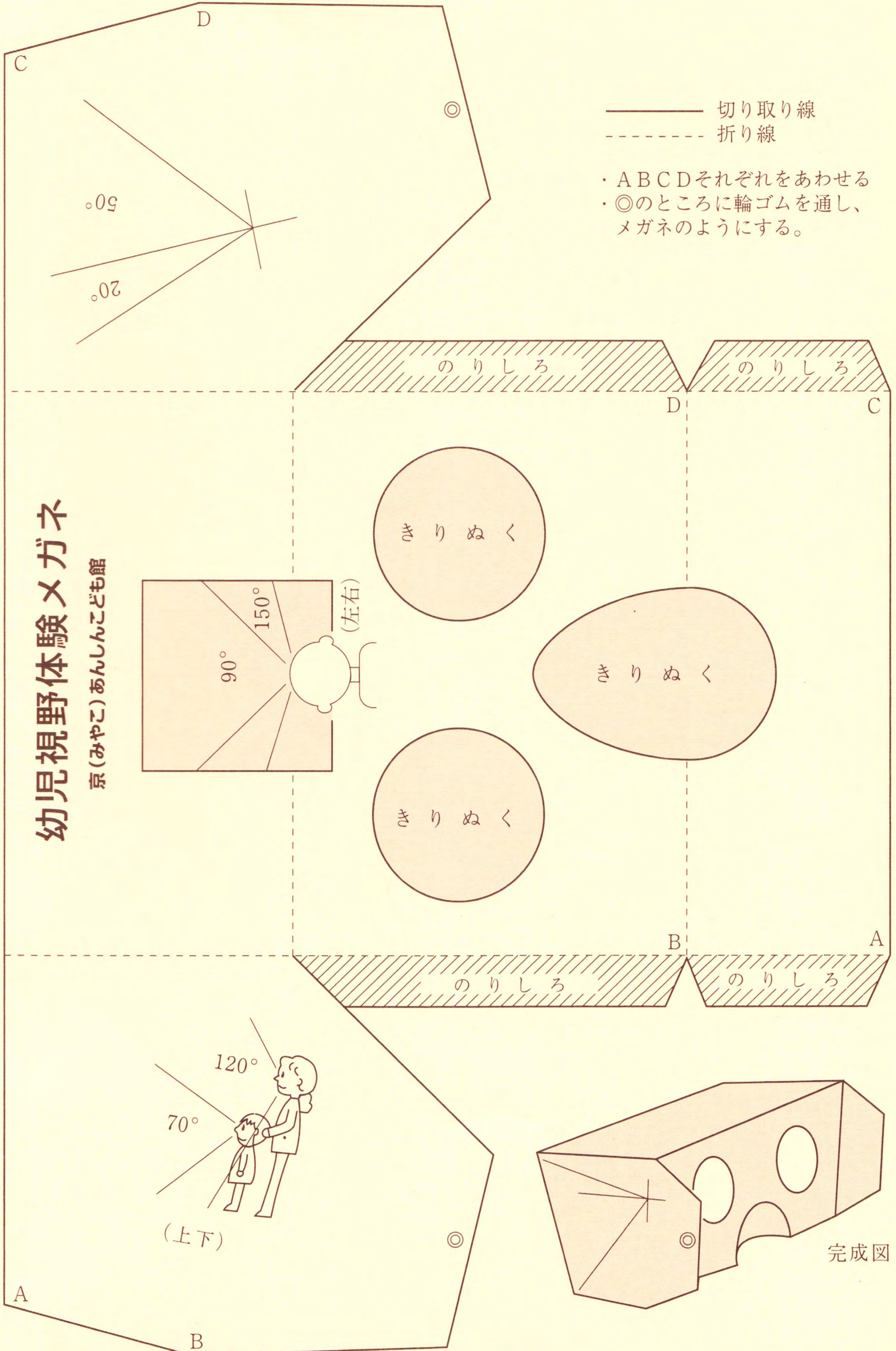


完成図



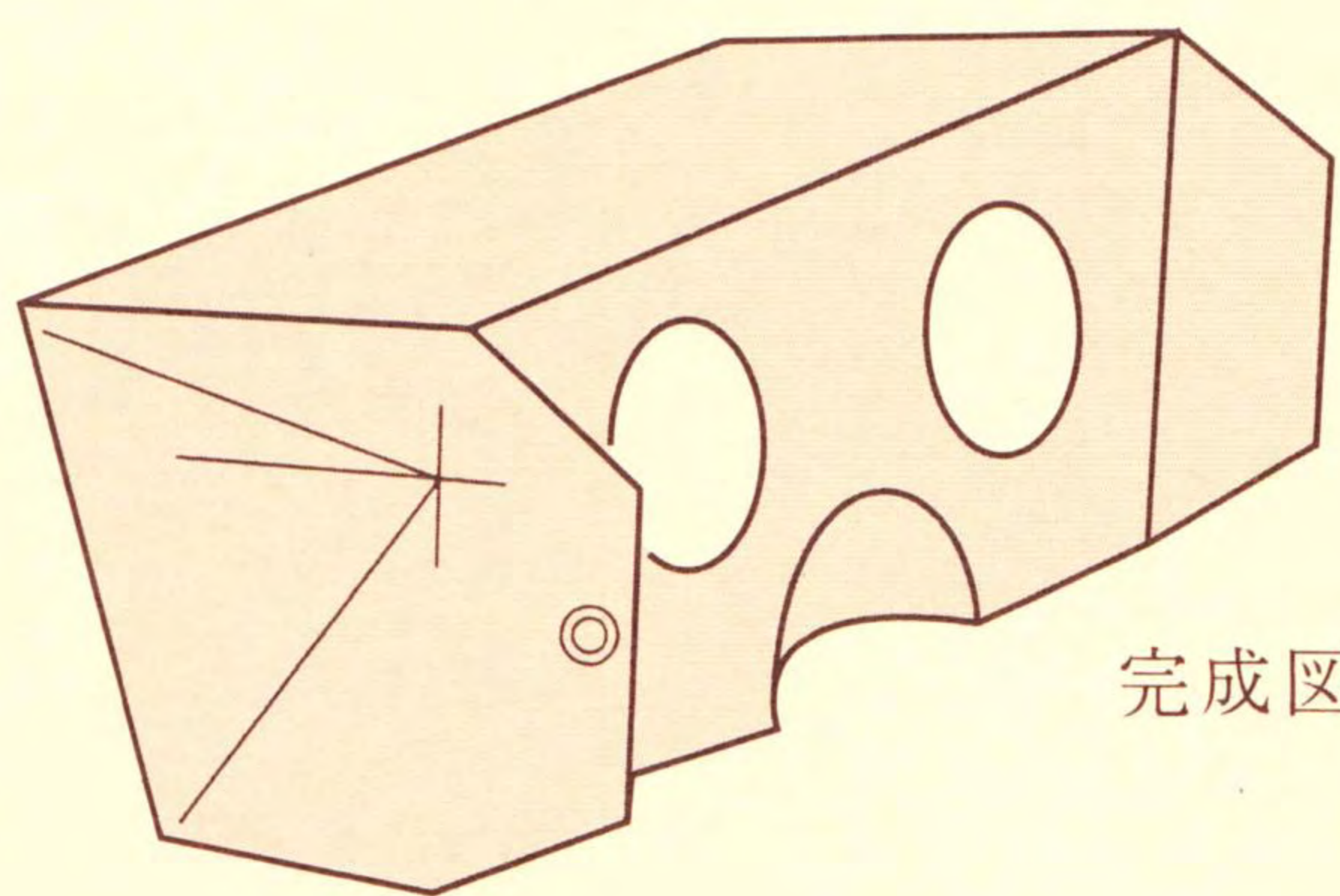
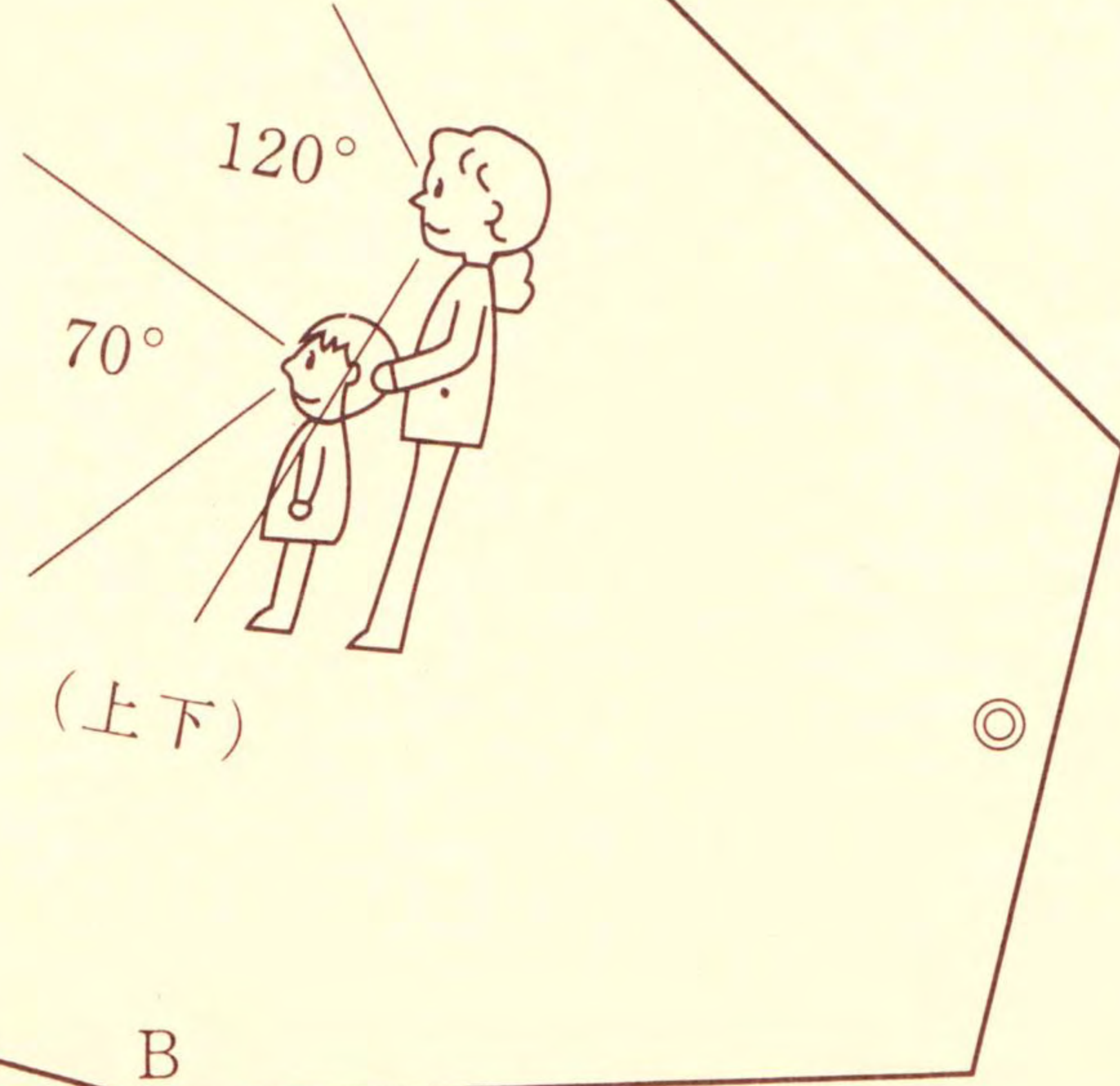
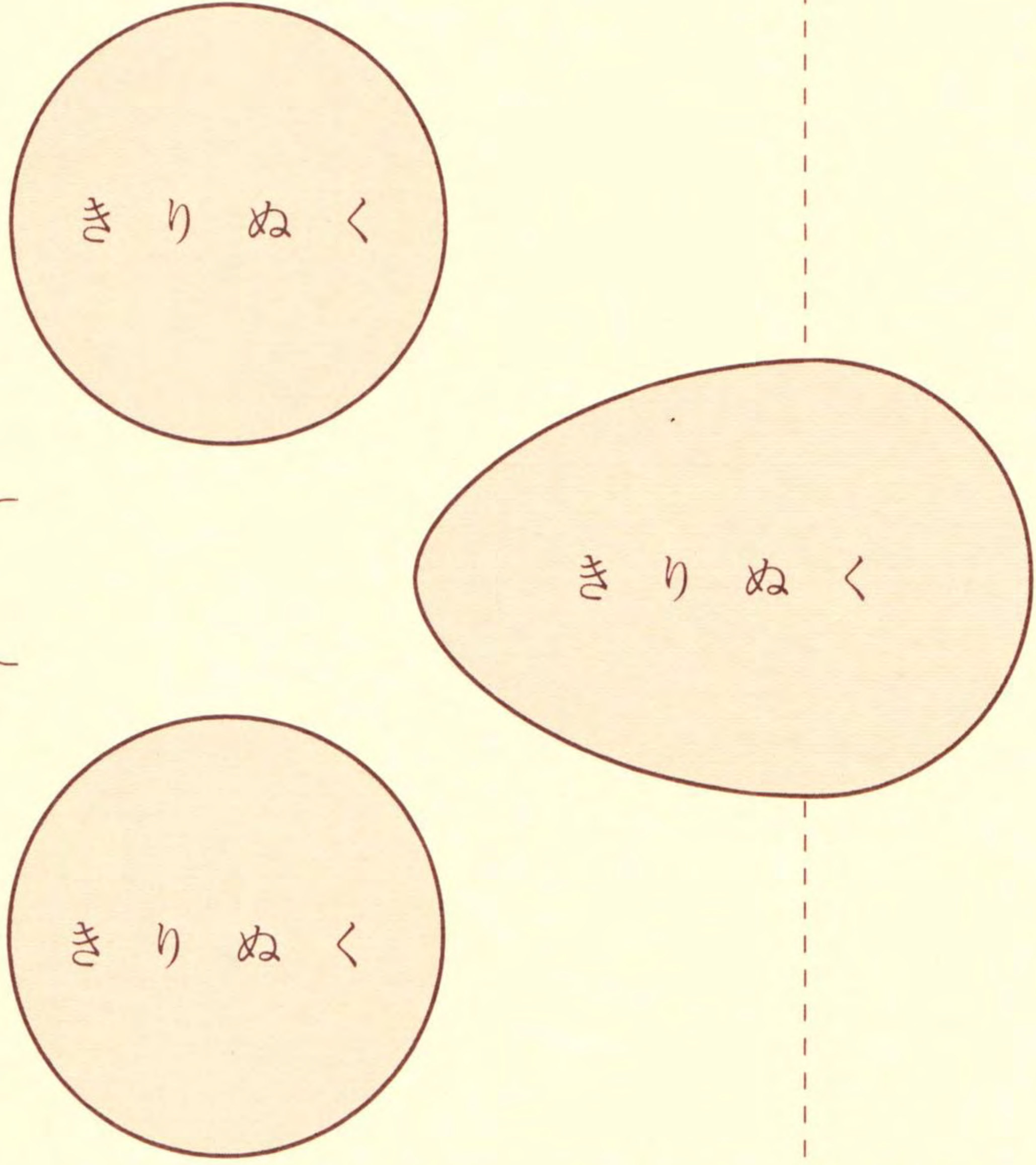
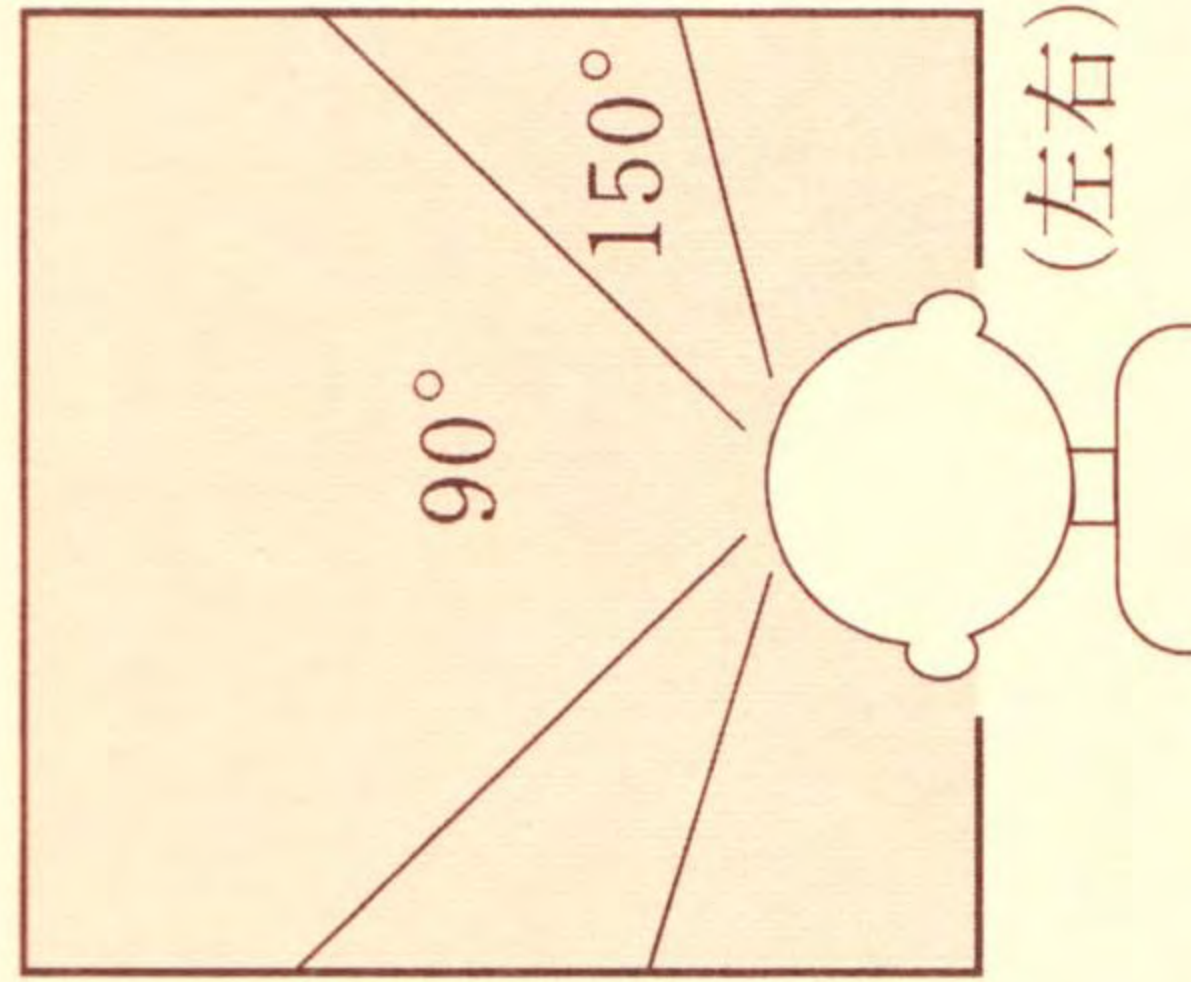
幼児視野体験メガネ

京(みやこ)あんしんこども館



—— 切り取り線
 - - - 折り線

- ・ ABCDそれぞれをあわせる
- ・ ◎のところに輪ゴムを通し、メガネのようにする。



完成図